

平成28年第4回下仁田町議会定例会会議録第1号（13日）

招集年月日	平成28年12月13日					
招集の場所	下 仁 田 町 議 会 議 場					
開閉会日時 及び宣言	開 会	平成28年12月13日午前10時00分			議 長	佐藤 勇二
	閉 会	平成28年12月21日午後1時03分			議 長	佐藤 勇二
応（不応）招議員 及び出席並びに 欠席議員 出席 12名 欠席 名 欠員 名 凡 例 ○ 出席を示す △ 欠席を示す × 不応招示す	議席番号	氏 名	出席等の別	議席番号	氏 名	出席等の別
	1	小 須 田 肇	○	7	佐 藤 勇 二	○
	2	岡 田 邦 敏	○	8	千 野 榮 治	○
	3	永 井 正 之	○	9	島 崎 紘 一	○
	4	木 暮 弘 元	○	10	堀 口 博 志	○
	5	岩 崎 正 春	○	11	岡 田 武 二	○
	6	佐 藤 博	○	12	佐 藤 公 夫	○
会議録署名議員	8番	千 野 榮 治	9番	島 崎 紘 一		
職務のため議場に 出席したものの氏名	事務局 長	樋 口 令 子		書 記	小 井 土 直 也	
地方自治法 第121条に より説明のた め出席した者 の氏名	町 長	原 秀 男		保健環境課長	猪 野 馨	
	副 町 長	吉 弘 拓 生		農林商工課長	岡 野 弘 行	
	教 育 長	茂 木 学		観 光 課 長	林 通 典	
	総 務 課 長	神 戸 哲		建設ガス水道課長	神 戸 宏	
	地 域 創 生 課 長	永 井 邦 佳		教 育 課 長	大 河 原 順 次 郎	
	住 民 税 務 課 長	堀 口 玲 子				
	会 計 課 長	(住民税務課長兼務)				
	健 康 課 長	荻 野 英 雄				

議 事 日 程 別紙のとおり

会 議 に 付 し た 議 件

- 1 議席の指定
- 2 議席の一部変更
- 3 会議録署名議員の指名
- 4 会期の決定
- 5 常任委員会委員の補欠選任について
- 6 特別委員会委員の補欠選任について
- 7 選挙第4号 下仁田南牧医療事務組合議会議員の補欠選挙について
- 8 一般質問

会 議 の 経 過

開 会 平成28年12月13日 午前10時00分

○議長 佐藤勇二 ただいまから、平成28年第4回下仁田町議会定例会を開会し、直ちに本日の会議を開きます。

○議長 佐藤勇二 日程第1、議席の指定を行います。

下仁田町議会会議規則第4条第2項の規定により、今回当選されました小須田肇君の議席は1番に、佐藤公夫君の議席は12番に指定いたします。

○議長 佐藤勇二 次に、日程第2、議席の一部変更を行います。

今回新たに当選されました小須田肇君、佐藤公夫君の議席の指定に関連し、議会会議規則第4条第3項の規定により、議席の一部変更を行います。

変更しました議席は、お手元に配付の議席表のとおりであります。

その議席番号及び議員の氏名を議会事務局長に朗読させます。議会事務局長

○議会事務局長 樋口令子 命によりまして、変更後の議席番号と氏名を朗読いたします。

1番 小須田肇議員、2番 岡田邦敏議員、3番 永井正之議員、4番 木暮弘元議員、5番 岩崎正春議員、6番 佐藤博議員、7番 佐藤勇二議

員、8番 千野榮治議員、9番 島崎紘一議員、10番 堀口博志議員、11番 岡田武二議員、12番 佐藤公夫議員。

以上でございます。

○議長 佐藤勇二 ただいま朗読しましたとおり、議席の一部変更をいたします。名前札を立ててください。

ここで、11月27日に執行されました下仁田町議会議員補欠選挙において当選された小須田肇君に、自己紹介を兼ねて登壇をし、ご挨拶をお願いします。

(1番 小須田肇議員 登壇)

○1番 小須田肇 皆様、おはようございます。

このたびの下仁田町議会議員補欠選挙におきまして当選をさせていただきました小須田肇でございます。

町のより一層の発展、活性化を目指しまして鋭意努力してまいります。何とぞよろしく願いいたします。

○議長 佐藤勇二 次に、佐藤公夫君に、自己紹介を兼ねて登壇をして挨拶をお願いします。

(12番 佐藤公夫議員 登壇)

○12番 佐藤公夫 皆さん、おはようございます。

このたびの補欠選挙で当選いたしました佐藤公夫です。

行政と議会を見ている中で、ここ地方創生の政策が発表されて以来、特に若い職員の方々の意識改革が進んでいるように感じております。この地方創生を完結するために、議会議員として執行側を、いい面におきましても、ちよつと考えられる部分におきましても、議員としてのチェックを進めながら地方創生を完結していきたいと思っております。よろしく申し上げます。

○議長 佐藤勇二 日程第3、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は、会議規則第126条の規定によって、8番 千野榮治君と、9番 島崎紘一君を指名いたします。

○議長 佐藤勇二 日程第4、会期の決定を議題といたします。

本定例会の会期については、さきの議会運営委員会で本議会の運営等について協議がされておりますので、その結果について報告を求めます。議会運営委員長

(島崎紘一議会運営委員長 登壇)

○議会運営委員長 島崎紘一 おはようございます。

議長のご指名がありましたので、議会運営委員長報告を申し上げます。

去る12月7日、午前10時から委員会室303において、議会運営委員会を開催し、本定例会の会期、日程及び議案の取り扱い等の議会運営に関する事項について協議をいたしましたので、その経過と結果についてご報告申し上げます。

まず、会期につきましては、本日から12月21日までの9日間とし、審議日程につきましては、お手元に配付されている日程表のとおりでございます。

本日は、会期の決定の後、町長のご挨拶をいただきます。その後、一般質問を岩崎正春議員が行います。

また、一般質問終了後は全員協議会を開催し、本定例会に提案されております議案等の細部について説明をいただきます。

14日は、午前10時より本会議を開催していただき、諮問第3号から議案第97号までの提案者の説明、質疑、討論、採決を行います。

次に、第98号議案から第101号議案の補正予算については、提案者の説明、質疑の後、予算決算特別委員会に付託をいたします。

15日は、予算決算特別委員会を開催していただきます。

16日は、委員会予備日といたします。

17日及び18日は、休日につき、休会といたします。

19日は、委員会予備日といたします。

20日は、休会といたします。

21日最終日は、本会議を開き、予算決算特別委員長から予算決算特別委員会審査の報告を受け、後に、第98号議案から第101号議案に対する討論、採決を行い、全日程を終了する予定でございます。

この会期、日程等についてご賛同を賜り、円滑な議会運営ができますよう議員各位のご協力をお願い申し上げまして、報告といたします。

○議長 佐藤勇二 お諮りします。

本定例会の会期は、議会運営委員長報告のとおり、お手元に配付の日程表により、本日から12月21日までの9日間としたいと思います。これにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○議長 佐藤勇二 異議なしと認めます。

したがって、本定例会の会期は、本日から12月21日までの9日間と決

定いたしました。

○議長 佐藤勇二 続いて、町長から定例会招集の挨拶を願います。町長
(原秀男町長 登壇)

○町長 原秀男 皆さん、おはようございます。

寒さがひとしお身にしみるところとなりました。議員の皆様には、お忙しい中をご参集いただき、大変ありがとうございます。

平成28年第4回下仁田町議会定例会の開会に当たり、ご指名をいただきましたので、一言ご挨拶を申し上げるとともに、過日11月27日に行われました下仁田町長選挙以降、初の議会となりますので、議案関連に先立ち、町政執行に向け、所信を述べさせていただきます。

このたび、下仁田町長選挙におきまして、多くの皆様方のご支援を賜り、下仁田町長の重責を担うことになりました原秀男でございます。

これまで私は、町議会議員として4期13年間仕事をさせていただきました。この間、一貫して誠実、公正を政治信条として歩んでまいりました。この信条を今後も継続して、ここに私の町政運営に対する所信の一端を申し上げ、町民の皆様並びに議会議員の方々のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

私の町政に対するスローガンは、「豊かな自然環境の中、地の利を生かし、町民が元気で安心できる住みよいまちづくりを目指す」であり、町なか活性化、基幹産業の後押し、高齢者対策、子育て世代対策と、4つの目標を掲げます。

最初に、町なか活性化でございます。

下仁田町には、歴史館、自然史館と2つに分かれた博物館的施設がございます。この2つを統合し、世界遺産である荒船風穴、ジオパーク、下仁田町の歴史遺産関係の史的集合施設、仮称ですが、下仁田インフォメーションセンターを下仁田駅周辺に建設し、できるなら複合施設として図書館機能も持たせ、より一層の利便性向上に向けていきたいと思っております。

また、2つの施設を1つに集約するわけでございますから、配置する職員数や経費の削減など、行革にもつながっていくことと思っております。

次に、基幹産業の後押しでございます。

下仁田町は、ねぎ、こんにゃく、シイタケといった全国的に有名な資産があります。現在もPRに向けて取り組んでおりますが、道の駅、観光協会などの関係組織と連携をより密にし、一層の活性化を目指したいと思っております。

また、下仁田町は、面積のおよそ85%が森林であり、その潜在的な価値は大変高いと思います。この森林資源を有効に活用するため、また町の経済活性化も図るため、国でも推進しているCLT工法を取り入れ、林業活性化を目指すとともに、森林保全、治山治水につなげてまいりたいと思います。

3つ目の高齢者対策と4つ目の子育て世代対策は密接な関係がございます。

下仁田町の高齢化率は非常に高く、出生率は非常に低い。とどめようのない少子高齢化の波の真ただ中にいます。この波を少しでもやわらげ、改善に向けた取り組みを行いたいと思います。

高齢者対策であります。町営バスの無料化を目指すとともに、バスルートの中に役場を入れるなど、利便性の向上を図りたいと思います。

また、昨今、高齢者ドライバーの交通事故が取り沙汰されておりますが、タクシー券の拡充を行い、高齢者が免許返納を行いやすくしたいと思います。

高齢者対策は身動きがとれなくなってきたからでは遅いため、健康維持教室の充実を行い、元気なうちに健康増進に向けてより一層取り組むことができる環境を整えたいと思います。

子育て世代対策であります。人口減少対策の目玉として、保育料の軽減、学校給食費の減額の実施を目指したいと思います。

子供公園の整備であります。子育て世代の求めている機能を有した公園の設置、既存公園の整備を行い、子育て世代のみならず、全ての世代で活用できる場の整備を行いたいと思います。

4つの目標以外でございますが、大きな枠組みということで、地方創生がございます。

皆様ご承知のとおり、下仁田町には平成27年10月に作成しました下仁田町まち・ひと・しごと創生総合戦略がございます。この計画は、住民の皆様の意見を取り入れながら作成したものであります。

今後、吉弘副町長とともに、早期実現に向けて取り組みを強化してまいりたいと思います。

町政に対する私の信条は、スローガンにも掲げたとおり、町民が元気で安心できる住みよいまちづくりを目指すことにあります。これは一人の力でできることではございません。議会と行政は車の両輪であり、その上に安心して町民が乗車できることが何よりも大事なことと思います。町民の皆様並びに議員各位のご理解、ご協力とご支援を賜りたく、お願いを申し上げ、就任に当たりましての所信表明といたします。

続きまして、議案関連でございます。

本定例会は、人権擁護委員候補者の推薦に関する諮問2件と、第83号議案から第101号議案までの19件をそれぞれご提案申し上げます。

いずれの案件につきましても、後ほど担当課長から詳細を説明させていただきますので、よろしくご審議の上、ご議決、ご承認賜りますようお願い申し上げます。

以上、所信表明を交え、平成28年第4回議会定例会開会に当たりましてのご挨拶といたします。

○議長 佐藤勇二 暫時休憩します。
休 憩 午前10時17分
再 開 午前10時19分

○議長 佐藤勇二 休憩を解いて再開いたします。

○議長 佐藤勇二 次に、日程第5及び日程第6は関連がありますので、一括報告いたします。

日程第5、常任委員会委員の補欠選任について、日程第6、特別委員会委員の補欠選任については、下仁田町議会委員会条例第6条第4項の規定により、お手元に配付しました名簿のとおり指名いたしました。

○議長 佐藤勇二 次に、日程第7、選挙第4号 下仁田南牧医療事務組合議会議員の補欠選挙についてを議題といたします。

お諮りします。

選挙の方法については、地方自治法第118条第2項の規定により、指名推選にしたいと思いますが、これにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○議長 佐藤勇二 異議ないものと認め、指名推選によることに決定しました。

お諮りします。

指名の方法については、議長が指名することにしたいと思いますが、これにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○議長 佐藤勇二 異議ないものと認めます。よって、議長が指名することに決定いたしました。

下仁田南牧医療事務組合議会議員に佐藤公夫君を指名いたします。

お諮りします。

ただいま議長が指名しました佐藤公夫君を当選人と定めることにご異議ご

ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○議長 佐藤勇二 異議ないものと認めます。よって、ただいま指名しました佐藤公夫君が下仁田南牧医療事務組合議会議員に当選されました。

ただいま下仁田南牧医療事務組合議会議員に当選されました佐藤公夫君が議場におられますので、本席から、会議規則第33条第2項の規定により告知をいたします。

○議長 佐藤勇二 次に、日程第8、一般質問を行います。

通告書に従いまして質問を許します。岩崎正春君

(岩崎正春議員 一般質問席へ)

○5番 岩崎正春 ただいま岩崎正春が議長のお許しをいただきましたので、通告書に従い、ご質問させていただきます。

今般の選挙では、ここ4回の選挙で、16年の町長選挙では79票差、14年は270票差ということで、今回特に485票差で、最近の選挙としては最も得票差がつき、町民から絶大な信頼を得てご当選されました原新町長でございます。

原町長とは議員時代の同期であり、13年間議会でご一緒させていただきました。今後とも、二元代表制の役目である執行のチェック機能と提案を精一杯させていただきます。今後とも是非非で、ご協力や提案できる場合は積極的に協調させていただきたいと思っております。

そうは言っても、下仁田町を代表するといえば、やはり町長が町の顔となります。町長も365日、24時間、気の抜けない激務が続きますが、町の顔として頑張っていたいただきたいと思います。

このたびの町長選挙、終わってみると、新聞にも掲載されたとおり、政策論争が低調だったのではないのでしょうか。選挙中、原新町長の「町を変えたい、行政の刷新をしたい」という熱いご発言もお聞きしたことがございますが、ただいま町長の所信をお伺いいたしました。

なお、「通告書の中の1番から3番までは所信表明のほうで述べさせていただきます」というお話をけさ9時前に執行側からいただきましたので、若干提出した通告書と重なったり、ちょっとちぐはぐしたりするものもあるかと思っておりますけれども、ご容赦願いたいと思っております。

地方創生の戦略ビジョンが策定され、いよいよ具体的な事業実施の段階となりました。その中で、特に副町長の処遇を心配される町民の声を多くお聞

きいたします。

町長就任早々、教育長とともに、先ほどの所信表明の中でも述べられましたが、副町長とともに一生懸命政務に精励されたいとのご発言がありました。こうしたこともあり、私の答弁をいただくというよりは、議事録や議会報などでアナウンスできますので、改めて町民の皆さんに向けてその件についてご答弁いただければありがたいと思います。よろしくをお願いします。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 先ほども所信表明で述べたとおり、地方創生に関しまして、ほかのことも含めて、副町長とともに進んでいきたいと思っております。

○議長 佐藤勇二 岩崎正春君

○5番 岩崎正春 ご丁寧に、催促して申しわけありません、ありがとうございます。

さて、先ほどの所信表明の中で、町長が町の施策について大まかに4点ほどお話をされました。特に荒船風穴とジオパークの関連で、史的集合施設、これらを1つにするという件についてですが、これらは日本ジオパークで認定になっている下仁田ジオパーク、これらの施設を1つにした場合のジオパークの枠組みというんですか、コンテンツが変わってしまうために、再認定の障害になることはないか、その点をお尋ねいたします。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 これからそれは調査いたします。

○議長 佐藤勇二 岩崎正春君

○5番 岩崎正春 ジオパークの枠組みというのは、申請した時点で、下仁田町の町内を一つのエリアとしてジオパーク申請しているわけです。そうした大きな枠組みを変えるとなると、これは申請を一旦取り下げて再申請になる心配はないか、その辺、もし専門的な回答が必要であれば、課長のほうからも答弁いただければありがたいと思います。

○議長 佐藤勇二 教育課長

○教育課長 大河原順次郎 今のご質問に対してですが、町長が考えられておられる広範囲ということになると、申請の出し直しという形になろうかと思えます。

○議長 佐藤勇二 岩崎正春君

○5番 岩崎正春 ただいまの町長の答弁、複合施設2つを1つにするというものがそれらに当たらないかどうか。どうでしょうか。

○議長 佐藤勇二 教育課長

○教育課長 大河原順次郎 自然史館及び歴史館のほうなんです、ここ何年かの準備の中で、国庫補助を受けております。そんな関係もありまして、すぐ2つを1つにできる状況にはないかというふうに思っております。

○議長 佐藤勇二 岩崎正春君

○5番 岩崎正春 町長の思いとすれば、インフォメーションセンターという名称で、広くPRを行いたいという趣旨だというふうに承りました。しかし、特に最近、ジオパークはユネスコのプログラムになりまして、中身そのものがかなり厳格になってきております。そういったことも十分詰めてぜひ進めていただきたいと思っております。

それから、基幹産業の後押しということで、特に原新町長が議員の時代にCLT工法の一般質問をされた記憶がございます。これらに力を入れていくということは大変結構ですけれども、これらは大変大きなプロジェクトで、これが即、今の荒廃する森林資源の活用につながるか、あるいは森林産業の活性につながるかという、なかなか先が見えない状態なので、難しい問題も随分あると思っております。

そのCLTが決まるか決まらないかの前に、現在の森林活性化の事業の取り組みというものについては、何か具体的にお考えがあるようでしたらお聞かせいただければありがたいと思っております。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 確かにCLT、このことに関しましては非常に、壮大と言うとおかしいんですけれども、大きな目標であります。でも、今、下仁田町の現状をいろいろ考えてみて、どうしてもその方向で向かっていかなければならない部分があります。そういった意味で、大きな目標として掲げさせていただいたことは事実です。

そういうことですから、もちろん時間はかかると思っております。ただ、この問題、もうCLTに関しては今、国と一緒に進めているんですけれども、時間が5年後10年後ではちょっと難しいと。かなり早い時期の目標達成が必要になってきています。そういう意味で、大きいことなんですけれども、目標として上げてきたと、そういう気持ちであります。時間がそういうわけですから、そこへ力をやはり注がなければいけないとは思っております。

それとともに、現状、目の前の問題としましては、やはり森林組合対策かなとは思っております。

○議長 佐藤勇二 岩崎正春君

○5番 岩崎正春 確かにCLTは、国策としてこういうものが具体的になれば、

下仁田町に大変大きなインパクトを与える可能性はありますけれども、既に森林組合員も高齢化が顕著でありますし、ごらんとおり下仁田町の森林資源も日を迫って荒廃をしているわけですから、こういったものの資源の活用、以前にはバイオマスとかいろいろな活用方法を考えてきたわけですが、下仁田町としても、町内産の木材を使って住宅を建てれば最大25万円の補助をするとか、そういったことも施策として行われてきたんですけれども、家を建てる数そのものの絶対数が少ないわけで、その辺は大変町長としても悩ましい問題であると思います。

CLTをもし将来を見据えてやるんだとすれば、具体的なプランをやっばり提示して、これは国の施策との関連がありますから難しいですけれども、町の取り組みとして具体的な目標を決めてやっていただかないと、森林を有している方々にとってもなかなか先が見えないのではないかなというふうに考えております。

これは、今すぐここでご答弁願うということは無理な話なので、そういうことを含めてCLT工法に関しては、私は長期的なビジョンで喫緊の課題ではないなというふうに考えております。

森林資源の活用ということは、今、町長から答弁いただいたように、今はほとんど昔の山師といった方も高齢化して数が少なくなりましたので、よく森林組合にお願いする部分があるわけですが、安全に森林作業ができるようなサポートをしたり、あるいは町外からのIターンの若者を受け入れたり、そういった部分にやっばりサポートしていただくのが一番、今としてはいいのかなというふうに思っております。

続きまして、高齢者対策を今、お話しされました。高齢者対策としてはバスの無料化あるいはタクシー券の拡充といったことが述べられたわけなんですけれども、ちょっと今やっている施策とほとんど聞いた限りでは変わりがないような感じがして、具体性にちょっと欠けているような気がいたしますので、またこの部分については少し詰めてお話をさせていただきますけれども、町営バスは、既にご存じのように、スクールバスと一般のバスで日本でも珍しい混乗化を実現させました。これによって、スクールバスとして運行する間は無料で、席があいていれば一般の人も無料で乗ったりと。昼間の間は有料200円を払ってバスに乗ると。

バスのその収益が、課長から正確な答弁はもらえればいいんですけれども、200万近くあるのかなと思いますけれども、それによって国からの交付税がそれらに、金額も課長のほうから答弁いただければありがたいんですけれ

ども、あると思うんですけれども、その辺を無料化した場合の国庫補助、交付金の給付ということに支障はないかどうか、その辺は精査されているでしょうか。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 それも考えております。詳しいことは副町長から。

○議長 佐藤勇二 副町長

○副町長 吉弘拓生 岩崎議員のご質問でございますけれども、町営バスの無料化に関しまして、現在は混乗ということで費用をいただいております。昨年度ベースでの収入でございますけれども、およそ212万6,000円の料金収入をいただきまして、県のほうからは182万4,000円の補助金をいただいております。この混乗化ということで完全無償ではございませんので、またあわせて国のほうから1,440万円の特別交付税を受けておるところでございます。

県のほうと今、確認をしている段階でございますけれども、全員を完全に無料化としますとこの特別交付税分がなくなりますので、その点につきましては慎重に、こういった方法がいいのかというところを精査していく必要があるかというふうに思います。

○議長 佐藤勇二 岩崎正春君

○5番 岩崎正春 これは町長も議員の時代に十分承知してこういう公約を掲げられているわけですが、私も町営バスの無料化が図ればこれは大変結構だと思うんですけれども、逆に、今副町長から答弁していただいたように、町の一般財源からの持ち出しが1,500万云々とある金額が今度は町の負担になるということになると、やっぱりバス事業だけじゃなくて、ほかの福祉施策とか子育て施策に支障が出ないかどうか。

当然それは町長も心配しているところだと思いますけれども、この辺も、町営バスの無料化ということをやりたいと、町民はそれなりの期待を、私もしてしまうんですけれども、実際はやっぱり町民に対しても、そういったバーターで国の交付金が切られる可能性がありますよということはやっぱりちゃんとリリースして、その上でやっぱり色々な施策を、当然一般財源から1,500万が出るとなれば、ほかで我慢してもらわなければならない施策が出るわけですから、その辺は町長としては責任あるコメントのリリースをちゃんとしてもらわないと、バスだけ特化して、じゃ、いいか、じゃ、何人乗っているのかという話になっちゃいますので、この辺は慎重にやっていたらと思うております。

当然、前、バスなどの以外にタクシー券なんかについても、デマンドバスとかそういったものも検討した経緯がございますけれども、やはり利用者の観点から言えば、タクシー券ならタクシー券の拡充ということはかなり有効だと思いますけれども、今現在、何枚発行されて、何人に発行されて、それをどのくらい拡充するのか、具体的なプランがあればお聞きしたいと思います。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 これからの検討だと思っています。

○議長 佐藤勇二 岩崎正春君

○5番 岩崎正春 テレビで、先ほど町長が言いましたように、高齢者ドライバーによる事故が特に最近目立っております。これも、高齢者の絶対数がふえていますから事故の絶対数もふえるわけですけれども、特に山間地においては、もう80歳くらいの方がドライバーで、地域内の人を病院や買い物にその人が運転して乗せていかないと足がないというのが実態だと思います。

今のところ、タクシー券が配られている地域にしてみてもやっぱり、それは助かるんですが、かなり本人の持ち出しが多い。片道3,000円ぐらいタクシー代金がかかるところが頻繁にありますので、その辺は十分詰めていただきたいと思います。

それとあと、健康維持教室の拡充ということで述べられました。もっともな話だと思います。健康なうちから、いつまでも健康な体を維持できるようにという話ですけれども、具体的には中身は、もちろん町長就任ですから余り無理強いたことを質問するつもりはございませんけれども、やはり各地域におけるコミュニケーション、同じ集落内でも今まではお茶飲みに行ったり来たりできた人たちも、高齢化によりなかなかそういった機会が得られないというような実態だと思います。そういったことで、なるべく小さなコミュニティで、若干、馬山、青倉でも地域で集会所を使ったカフェみたいなものをやるという取り組みも始まったようですけれども、そういったことをきめ細かくやっぱり地域地域に取り組んでいただきたいというふうに思います。

やっぱり保健センターに来いとか文化ホールに来てくださいというのは、町なかの人は行けるかもしれませんが、本当に高齢者地帯の人にとっては、それこそ高齢者ドライバーが運転してその施設に行かなければならないという実態があるわけですから、その辺はきめ細かに取り組んでいただきたいと思います。これは、費用的にも社会福祉協議会とうまく協調すれば、

町の費用の持ち出しはそれほどなくても済むと思います。

それと、子育て世代の対策ということで、ここに保育料の軽減とありますけれども、もう既に第2子以降は無料化しているわけで、これは第1子の保育料を軽減するのか、何をどう軽減するのか、具体的なものがあればご答弁いただければありがたいと思います。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 そうですね、第1子です。

○議長 佐藤勇二 岩崎正春君

○5番 岩崎正春 第1子を、じゃ、無料化をしないと。

○町長 原秀男 無料化じゃないよ。

○5番 岩崎正春 軽減ね。はい、わかりました。できる限り早目に軽減の中身について議会にご提示をいただければと思います。

それと、同じく学校給食の減額ということがあります。今現在、学校給食費をいただいて、給食費として4,000万云々という金額と、逆に給食センター費、今度は新しい給食センターができますけれども、それが移った場合の経費がもちろん今度は変わるとは思いますけれども、かなりの1食当たりの負担もしているわけです。1食当たりにすると約1,100円近くの給食費がかかっているわけですが、実際中学生や小学生で370円、470円という金額で、食材費のみを今のところ負担いただいているわけですが、これ以上どのような減額を検討されているのか、具体的な中身があればご答弁いただければと思います。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 具体的でなく、ともかく子育て世代に対する何とか応援をしてやるのが町の立場かなということで、私の目標として掲げさせていただきました。

ですから、もちろん軽減、それなりの減額と、そういう目標で進みたいと思います。これから具体策は検討していきたいと思っています。

○議長 佐藤勇二 岩崎正春君

○5番 岩崎正春 軽減をしたいと。現在納めている給食費の軽減をしたいということで、中身についてはわからないので、ちょっと残念な気がいたします。それはまた具体的に、所得制限をするのか、そういうことも含めてなるべく早い時期にご提案をお願いいたします。

それと、地方創生に関連して町長のほうから、戦略ビジョンに基づいてこれから進めていくんだということです。

私は、選挙前に原町長からも「行政の刷新を図るために町長をやりたいんだ」というお言葉をお聞きしました。大いに私も期待するところですが、具体的にどのように刷新をされるのか。任期が4年残っておりますので、なるべく早いうちにそういうものを発表して刷新に取り組んでいただきたいと思えます。いかがでしょうか。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 「刷新」という言葉は、今までの流れというか、停滞感を非常に感じていました。そういう意味での「刷新」という言葉でございます。ですから、全てにおいて前向きで行くという意味での「刷新」を使わせていただきました。

○議長 佐藤勇二 岩崎正春君

○5番 岩崎正春 刷新をしたいという意欲は一応汲み取ることにいたします。

それで、私から前の町長のときも提案したことがあるんですけども、具体的に、じゃ、どういう面で行政内の刷新をするかということになりますけれども、先ほどの所信表明の中でもございましたが、やっぱり職員の間でも特に若い人たちの意欲が、町長じゃなくてほかの議員の方ですね、その中でもありましたように、特に若い職員の中で前向きに町政に取り組む、施策立案をする職員がふえているということは伺い、私も前から感じております。これはもちろん副町長の影響によるところが多いと思えます。ようやく副町長の周りのブレーンも、みずから動いて町政の刷新に向けて努力しているところがございます。

私の提案としては、今、町長交際費とか旅費が90万ぐらい計上されて、決算額で88万何がしか、予算書、決算書を見るとあるんですけども、副町長の交際費とか旅費というのは別途設けてあるのかどうか、その辺をまたお聞きします。

○議長 佐藤勇二 総務課長

○総務課長 神戸哲 お答えします。

副町長の交際費という項目はないんですが、町長交際費、27年に補正しまして増額してございます。そこに含まれているということでございます。

○議長 佐藤勇二 岩崎正春君

○5番 岩崎正春 副町長はフェイスブック等で日々の行動を公開されていて、私たちが身近に感じて、町の動き等もよくわかるんですけども、かなりの回数を町外に出て活動をしております。本当にこれで体がもつのかなと、体は痩せていませんから多分もっているんだと思えますけれども、お金のほうが

どうなっているのかなという心配もしております。

当然、今はそんな官官接待なんていうのはもちろんできないし、やるべきではないと思いますし、しかし、東京の官庁に行った場合、当然いろいろなことで思いがけない出費とか、移動とか、緊急を要してタクシーを使うとか、いろいろな面が考えられると思いますので。その辺は、決算額とすれば88万ちょっとでしたよね、去年はね。そんな額で非常に少ない金額で、副町長の力だけじゃないですけども、昨年度では地方創生に関して加速型、追加型で1億3,000万、本年度になってもう既に3億8,000万近い、地方創生に関する国庫支出金を国からお認めいただいたという功績は非常に大きいと思います。

一層これから若い人たちにそのかわりをして育成をしていただくという点でも、その辺の運用については、議会の、理解を得なければなりませんけれども、しっかりとお金の面でもサポートできるような方法を考えていただきたいと思います。

当然そうなると町長はその分ほかの仕事ができて、町の行政にとってはプラスになると思います。

それで、副町長を今までのように町長のかわりに、何かの代理で挨拶に行かせるとかそういうことじゃなくて、地方創生に関した部門と観光に特化した事業部みたいなものをつくりまして、そこの専門の担当の副町長に抜擢するというような方法だと、より一層国とのやりとりが活発になり、中身が充実するのではないかと思いますけれども、昨年度は若干町長のかわりに挨拶とか、いろいろなところに顔を出してとかというのを随分されていたので、それよりも本来の国や県のあらゆる連携自治体との交流というものに力を入れていただけたらと思いますけれども、どうでしょうか。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 そういうことで検討していきます。

○議長 佐藤勇二 岩崎正春君

○5番 岩崎正春 それでは次は、道の駅の大改修についてです。

これももちろん先ほどの所信で述べられましたけれども、これは国の重点道の駅ということで昨年認定されまして、これからは単なる休憩所や物産販売の拠点ではなくなるわけです。雇用、交通、生活、育児、定住・移住、総合戦略の核となる道の駅となります。新しい人の流れが西から長野県、東は首都圏、近隣の町村と、交流人口は100万人が見込めるという試算も以前ありました。

これらについて28年、29年には大改修が行われるわけです。この辺の事業を、ハード事業だけじゃなくて、ソフト事業にどうつなげていくか、その辺の所信をお伺いしたいと思います。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 道の駅しもにたは、本年1月27日に群馬県内初となる国交省の重点道の駅の指定を受けています。吉弘副町長を中心に国・県等へ働きかけ、重点道の駅の指定を受けることができ、その結果、地方創生加速化交付金を初め多くの交付金を受け、町単独費用の負担が少なく整備が進められています。平成30年度のオープンに向け、スピード感を持って整備を進めているところです。

町では、大きく3つの柱を持ち、再整備を進めています。まず1点目ですが、町の総合情報発信拠点としての機能の強化です。それから2点目ですが、町民が生涯活躍できる社会の実現に向けた農産物の集出荷や買い物支援、子育てサポートなどの地域福祉支援の拠点としての整備です。3点目ですが、下仁田ねぎを中心とした農産物の直売機能の充実、地産外消による販路拡大と、それに伴う売り上げによる年中での所得が得られるような農業振興支援です。

このように3つの柱を設けて整備を進めているところですが、このほかにも地域防災の拠点としての機能、地域の雇用促進の場所等、あらゆる機能を持たせた小さな拠点として今後も整備、運用を進めてまいりたいと思っております。よろしくお願いたします。

○議長 佐藤勇二 岩崎正春君

○5番 岩崎正春 既に議会のほうに提示されている事業規模としては6億2,000万に近い金額、国庫支出金も2億5,000万近いお金が計画されているわけです。

これらのハード事業をやっぱり十分生かすには、そこで今言われましたように物品販売をするにしても、町外から買った物をそこで売ったのでは町内にお金が落ちませんから、やっぱり町内の生産者、農家の方がつくった物を売れるように、あるいは、これからそういうことがあればつくってみたいという農家さんや生産者が一人でもふえていただかないと。

ここのところ幾日かテレビでもいろいろな下仁田町の農家の方の取り組みが紹介されていますけれども、各地にまだ結構それぞれの家庭でつくられているものがたくさんあると思うんです。それを生産者、農家の方は販売までというとなかなかできませんけれども、その辺の販売の促進をして、道の駅

で売ることによって町民の懐にお金が落ちるといふサポートがどうしても必要だと思います。

それには、今、道の駅、あるいは法人化されましたけれども観光協会も、もう一つ何か歯車が合っていないような気がいたします。地域のDMO法人の登録などを一層進めて、地域全体が経済的に総合的に潤うようなシステムを急ぐ必要があると思いますけれども、その辺はどのようにお考えでしょうか。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 先ほど3点目で話したことだと思いますけれども、とにかく地産外消、販路拡大と、それを目指していきたいと思います。

○議長 佐藤勇二 岩崎正春君

○5番 岩崎正春 具体的なことをちょっと聞いたかったですけれども、次に行きます。

それでは、続いて6番目の国、県、近隣自治体あるいは連携施設に対しての対応についてお伺いいたします。これはどのようにされますか。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 今、6番目と言ったんですけれども、それは5番との関連ということでもいいでしょうか。

○5番 岩崎正春 それも含めてで結構です。

○町長 原秀男 いいですか。

○5番 岩崎正春 はい。

○町長 原秀男 そうなれば、世界遺産とジオパークを含めてということですか。

○議長 佐藤勇二 岩崎正春君

○5番 岩崎正春 5番の質問を先ほど町なか活性化の点で答弁されたので、あえてここでしゃべらなかつたんですけれども、このジオパークにしても世界遺産にしても、あるいは「ねぎサミット」、あるいは練馬区、うきは市、それともいろいろな交流があると思うんですよね。その辺の自治体関連では今後どうされるのかということでもあります。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 それは今後の課題ですから、また後ほど説明します。

○議長 佐藤勇二 岩崎正春君

○5番 岩崎正春 もうちょっと覇気を出していただきたいんですけれども。

そうなると、当面現状維持で行政を継承するということでは理解してよろしいでしょうか。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 現状というか、これからですね、その辺のところは。私が考えていたのは、風穴とジオパーク関連かなと思っていましたので。よろしく願いします。

○議長 佐藤勇二 岩崎正春君

○5番 岩崎正春 これは、日本ジオパーク委員会、あるいは風穴サミット、いろいろ町民の方の間ではそれぞれそういった交流を進めているようですが、さらに副町長に見られるような、下仁田町からもうきは市に人事交流していると。こうしたことも引き続き、職員の名前は挙げませんが、引き続き同じ人をお願いして人事交流を続けるのか、どうかと言う事です。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 それも今、考えております。前向きに進んでいけると思います。

○議長 佐藤勇二 岩崎正春君

○5番 岩崎正春 ご存じのように、議会というのは執行側の答弁をお伺いするために聞いているんですけれども、なるべく早くそういったことも、人の生活ともかかわっておりますので、もし変更があるならば早目に提示しないと、これは失礼に当たるというふうに考えております。当面現状を継続するというお考えなのかなというふうに思います。

それでは、最後になるんですけれども、今回の選挙ではいろいろな憶測がありましたが、長年対立していた当事者が握手し、融和が行なわれたと私は理解しております。

今回は2人が選挙で争う結果になりましたけれども、地方創生やこの人口が8,000人を切る町で、より一層町民の力をおかりしなければならない、力をかりて地方創生をしなければならないという現状を鑑みますと、原町長におかれても一層の町民との一体感、融和を図り、安心して住めるまちづくりに邁進していただきたいと思います。

地方創生も、創生から定着、さらに発展、生き残るための施策を持っていかなければならない段階だと思います。それには、どうしても町民同士が力を合わせられるような体制づくり、こういうものが不可欠だと思いますけれども、それについて町長から特に何かあったら。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 今まで述べてきたように、十分考えて進めたいと思います。よろしく願いいたします。

○議長 佐藤勇二 岩崎正春君

○5番 岩崎正春 私も、町長も議会の理解を得て、議会は議決権がありますから、それを振りかざすことはもちろん危険で、そういうことはないと思いますけれども、やっぱり町長の考えていること、あるいはそういった方向性を私たちも情報を共有しないと、一緒にまちづくりに参画したい気持ちになりませんので、なるべく早い段階で議会には提示をお願いしたいと思います。早くその中身について私たちも議論したり、まちづくりの方向を町民に示せるようにしてもらいたいと思いますので、よろしく願いいたします。

以上、時間は大分早いですが、質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長 佐藤勇二 以上で一般質問を終結いたします。

○議長 佐藤勇二 本日の日程は全部終了いたしました。

本日はこれにて散会します。

大変ご苦労さまでした。

散 会

平成28年12月13日

午前11時01分